

## 注意

前年度の入試情報となります。  
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited



RYUKOKU  
UNIVERSITY

龍谷大学  
政策学部



2024

Faculty of

Policy Science

# Exploring Sustainability

## 「持続可能性」を探究し、 より良い地域社会を創造する

現代社会には、さまざまな要素が複雑に関係しているたくさんの課題があります。それらを解決するためには、幅広い専門性と知識、そして解決するための実践的な力をもつ人材が必要です。政策学部では、理論と実践のカリキュラムで、社会の課題を発見し解決に向けて自立的に取り組む市民性を身につけた人材を育てます。



話し合いプロジェクト

# Facilitating Community Development

## まちづくりに向けた話し合いの場をサポート

ファシリテーターとして  
市民の話し合いに参加する

「話し合い」創造プロジェクトでは、滋賀県守山市や京都府京丹後市などと連携し、地域住民がまちづくりについて話し合う場に、学生がファシリテーターとして関わります。参加者の意見をまとめて議論が円滑に進むようにサポートする「ファシリテーション」と、ホワイトボードや模造紙に発言を記録して論点を可視化する「ファシリテーション・グラフィック」。



これらのスキルを話し合いの場で実践し、より良いまちづくりをめざします。

複数の自治体に関わり  
地域の多様性を理解する

昨年までは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現地での活動は難しかったものの、2022年は、研修を経て話し合いの場に参加することができました。実際に自分たちがファシリテーターとなって話し合いをサポートするなかで、ファシリテーションとグラフィックを両立させながら議論をすすめていく難しさや、みなさんの話のペースに遅れずに要点を整理していく大変さなど、座学だけではわからない多くの気づきを得られました。そのような課題をみんなで共有し、学び合える点も、「話し合い」創造プロジェクトの良いところです。次の話し合いの場がすぐにセッティングされるため、学生は短期間で練習・本番・反省を繰り返すことができ、より速く効率

的にファシリテーションの技術を向上させられます。このプロジェクトをとおして私は、それぞれの自治体が地域課題に対して真摯に向き合い、問題の解決に向けて努力されていることを改めて知りました。このような機会を活用し、複数の自治体をフィールドにいろいろな人の意見を聞かなかで、地域の多様性への理解がますます深まりました。

住民が意見を交わせる場が  
地域の活性化につながる

まちづくりは一部の住民だけですめられている場合が多く、参加者の負担が大きくなりがちです。地域を活性化させるには、一人ひとりが当事者意識をもって協力しなければなりません。そのために必要なことは、誰もが気軽に参加して交流し、意見を交わせる場です。「話し合い」創造プロジェクトは、そんな話し合いの場をお手伝いしています。このような取り組みは、

# pment

まちづくりへの関心の低さという社会課題の解決にもつながるはずだ。

実践と反省のサイクルで議論を円滑にする力を習得

「話し合い」創造プロジェクトの学びの特徴は、活動内容をその都度振り返り、自分の成長につなげられることです。これを「リフレクション」といいます。講義や研修で学んだファシリテーションの技術を実際の話し合いの場でどのように実践

できたか、あるいは実践できなかったかを確認し、そこで見出した改善策を次の機会に役立てる。これを繰り返すことで、学びをしっかりと血肉化できます。このリフレクションのおかげで、私は、ゼミをはじめさまざまな場で話し合いの舵取りができるようになりました。周りの人から「進捗が上手だね」「話しやすい会議だった」といわれることが増え、自分が成長できていると実感しています。



**Ryohei Matsuyama**

松山 遼平さん

3年生

(京都府立福知山高等学校 出身)

## 政策実践・探究演習 (国内)

「政策実践・探究演習」は、さまざまな地域の問題解決にチームで取り組むPBL (Problem / Project Based Learning) 科目です。話し合いによるまちづくりや、農産物のブランディングをとおした農村づくり、地域資源の再発見・評価を通じて地域社会の活路を見出す取り組みなど、複数のプロジェクトがあり、学部生と大学院生が共に参加し学び合います。学生が自分たちで地域課題を分析し、地域住民の方々と、行政、専門家と協力しながら活動することを通じて、論理的思考力や表現力、マネジメント能力などを身につけることができます。

(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)



企業のCSR実践演習

## 学生目線で考えるCSRの可能性とは

企業が担う社会的責任を意味する「CSR (Corporate Social Responsibility)」。

日本の企業は、どのようなCSR活動を実践しているのでしょうか。

学生たちが実際に企業へ足を運び、新たなCSRの可能性を探ります。



### CSRの歴史や意義を知り 企業活動の実態を把握する

高度経済成長を迎えて以来、企業は革新的な商品を生み出してきました。しかし、その代償として汚染物質を排出し、自然や人に悪影響を与えたのも事実です。そういった経緯から、企業は自社でできる社会貢献、CSR活動を開始しました。CSRに関する歴史や意義を深く理解し、企業の方からCSRの実態を聞いたうえで企業を訪問し新たなCSRの可能性について提案を行うのがCSR実践演習です。普通に大学生活を送っているだけでは、企業の

方と関わる機会は減多にありません。しかし、この演習では企業の方々と密に関わりリアルな声を知れるので、企業の実態を把握できます。徐々にヒアリング力や課題発見力が鍛えられCSR活動以外にも企業が抱える社会課題が見えてきました。

### CSR活動が進まない裏には 企業が抱える課題があった

企業は利益を求めますが、CSR活動から利益は生まれません。CSR活動を過剰に行くと逆に会社の負担となり、社内からの批判が生まれるなどの課題が挙げられます。また、企業がCSR活動に踏み出せない背景には、資金不足や人材不足などの課題が潜んでいる可能性もあるでしょう。こういった企業の課題を発見できたのは、さまざまな先行事例に触れ、社会問題に関する学びを深めてきた経験があったからこそ。学びを活かした提案力や思考力が養われたのだと思います。また、企業訪問を経て、学んできた社会問題と実際にその企業が抱える課題が同じなのか、違った場合はどのようにその課題に取り組んでいくのかを考える良い機会にもなりました。

### CSRを実践して得たのは キャリア形成に役立つスキル

今回の経験をきっかけに、日々の社会動向をチェックするようになり、先行事例から成功例を分析したり、自分の意見を構成したりする前向きな姿勢も身につきました。分析力や思考力、プレゼン力も鍛えられたと思います。これらのスキルを自分のキャリア形成に役立て、社会でも活かしていきたいです。



Ryo Higuchi

樋口 凌さん

3年生

(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)

## キャリア・コミュニケーション演習

### 対策や施策にコミュニケーション力を掛けあわせ 社会課題の解決へとつなげていく

社会課題は対策や施策だけでは解決できません。自らが主体的に行動し、会話し、人間関係を広げていくことが解決につながります。解決へつなげる力を身につけられるのがこの授業です。自己分析や模擬裁判、ヒプリオバトルなど学生参加型プログラムでコミュニケーション力を磨き、地域コミュニティで実践する能力を身につけていきます。知識の修得から実践、振り返りまで一連の流れを経験するなかで、対話以外にも他者に影響を及ぼすコミュニケーションの形があると知り、社会におけるコミュニケーションの重要性をより深く理解できました。ここで培ったコミュニケーション力に課題解決型思考をプラスして、社会課題の根本を見極めていきたいです。

#### Nanami Nakae

中江 奈々美さん

3年生  
(京都府立北嵯峨高等学校 出身)



## キャリア・ コミュニケーション演習

政策学部のアクティブ・ラーニング科目を履修し進路決定に役立てた上回生の報告や、学年を越えた受講生同士のディスカッションを通して、キャリア形成のうえで必要な知やスキルについての理解を深めます。加えて、地域の課題を見抜き、解決に向けた政策ができる人物像について考え、自身のキャリアデザインにつなげることをめざします。  
(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)

## Ryu-SEI GAP

### 子どもたちの居場所づくりを通じて 貧困・教育問題への理解を深める

みらい部は、「子どもたちがのびのびとできる環境づくり」をめざして活動しています。したいことができない、家に帰りたくない、やる気が起きないなどの生きづらさを抱える子どもたちが自由に好きなことをし、自信をもてるようサポートを行っています。当事者や保護者、支援者の方々と関わるなかでわかったのは、子どもの生きづらさの背景に貧困や教育の問題があるということです。それらの社会課題を肌で感じながら学べました。また、テーマ設定からイベント企画まですべて自分たちで決めて行動するうちに、チームワークに必要な思いやりや主体性が培われたと感じています。スケジュール調整、広報、アポイントメント、協力先とのミーティング、助成金の申請といった実践的なスキルも身につきました。

#### Yuta Nabeshima

鍋島 湧汰さん

3年生  
(大阪府 箕面自由学園高等学校 出身)



## Ryu-SEI GAP

Ryu-SEI GAP (Global Action Program) は、地域社会の課題解決に取り組む正課外の実践型プログラム。「京都市伏見いきいき市民活動センター」を拠点に、地域の課題意識を共有した学生が、LGBTQや地域の活性化、高齢者の居場所づくりなど、幅広い課題ごとにプロジェクトチームに分かれて大学周辺地域で活動に取り組みます。  
(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)



# Hot Topics

## 政策学部の取り組み

### 1 現場に出て学ぶ

地域での活動をととして社会とつながることで、地域の方々とのコミュニケーション能力の育成や、課題を発見する気づきの力を養います。さらにヒアリングやアンケート調査の手法を学び、実際に調査を行い、その地域での課題解決に向け研究をすすめます。1年生から現場に出て学び、課題を地域の方々と協働して解決できるようなカリキュラムとなっています。また、正課外の活動では、「Ryu-SEI GAP」といった地域の課題解決に取り組むプロジェクトを行っている学生もいます。このような活動をととして、プロジェクトメンバーと協力して目標を達成するチーム力を身につけ、どのような道に進むとしても必ず役に立つ力を育成します。2020年度からは新型コロナウイルスの感染拡大を受け、フィールドワークを行う際にPCR検査を実施するなど、学生や地域の方々の安全安心を最優先に活動に取り組んでいます。



### 2 地域公共政策士として 社会の課題を解決する人材へ

地域公共政策士は、環境問題や雇用問題、少子高齢化、人口減少、産業衰退といった社会的課題を産官学民の連携のもと解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導およびコーディネートができる人材「地域公共人材」の能力を保証する地域資格制度です。課題発見力（地域に根差した課題を見つけ出していく力）、課題分析力（発見された地域の課題に対し、多角的に分析していく力）、課題共有力（地域の課題に対して、チームで課題解決に取り組む力）、地域で活躍できる力（さまざまなセクターによって担われる地域の公共的な活動を理解し、社会全体に主体的に関与できる力）をアクティブ・ラーニングをととして身につけていきます。



## 政策学部で身につく力

### 問題・課題発見

- 課題発見力
- 広い視野
- 鋭いアンテナ
- 質問力

### 調査・分析

- 情報収集力
- 情報分析力
- 状況把握力
- PCスキル

### 企画・立案

- 論理的思考力
- 文章力
- 表現力
- 説明・説得力

### 実行

- 行動力
- 交渉力
- リーダーシップ
- ファシリテート力

## 3 1年生を支えるクラスサポーター

レポート、レジュメの作成や設定されたテーマについてグループで議論することなど新生入をサポートする上級生をクラスサポーターと呼びます。大学での学びに欠かせないスキルを身につけるためのアドバイスや学生生活に関する相談まで上級生ならではの経験をもとにサポートしてくれる強い味方です。また、新生入同士が親睦を深められるようなイベントを企画・運営し、より良い大学生活をスタートすることができます。



## 4 学部の魅力を広めるイベントスタッフ

政策学部の魅力を学内だけでなく学外にも広める「イベントスタッフ」と呼ばれる学生団体があります。日々、政策学部の広報活動をどのように展開していくのか、政策学部生や龍大生が関心のある話や事柄は何かを話し合っています。毎年、学生自身が企画した講演会などのイベントも実施しています。また、オープンキャンパスのときには、政策学部のイメージカラーである黄緑色のTシャツを着て、独自のイベントを実施し、政策学部生としての視点から高校生へ魅力を伝えています。



## 5 少人数クラスの演習で段階的に学びを深める

演習（ゼミナール）は、講義科目とは対照的に、みなさんが中心となって学修をすすめていくものです。1年次に開講する約20人クラスの「基礎演習」では、4年間を有意義に過ごすノウハウや政策学を学ぶために必要な能力を修得。2年次前期からは、対話・議論能力を身につけ、2年次後期から始まる「演習Ⅰ」に向け段階的に学ぶことができます。



## 6 海外へもフィールドワークに出かける

フィールドワークに出かけるのは日本国内だけではなくありません。これまでアメリカのカリフォルニアやポートランド、中国の南京へ滞在したり、オンラインを活用し、日本と比較しながら、海外のコミュニティやグローバルな視点をもった地域づくりについて学びを深めてきました。海外の良い事例を日本にどう反映させていくのかなどの課題を持ち帰り、書籍などだけでは学ぶことのできない力を養います。



## 7 早期履修制度で大学院の科目を先取り

4年次には、条件を満たせば大学院の科目を履修できます。先取りすることで、研究内容につながる長期インターンシップに参加できたり、通常は2年制の修士課程を1年間で修了したりすることも可能となります。政策学部には政策学研究科への進学に向けて準備するためのサポート体制が整っています。



## 8 在学中に起業し、活躍する卒業生も多数

ビジネスを手段として、地域活性、障がい者の支援、環境保護などさまざまな社会問題の解決をしようとする「ソーシャルビジネス」の起業家を数多く輩出しています。その多くが在学中に課題を発見し、起業して活躍しています。そのなかには、在学中に獣害被害対策としてシカが殺処分されているところを目の当たりにし、この状況を解決できないかということで、シカ肉を加工・販売している企業もあります。



# 4-Year Studies



## 4年間で何を学ぶ？

## 社会の課題を幅広い視点から解決する人材を育む

	1年次	2年次	3年次	4年次
	基礎をしっかりと身につける	自分にぴったりのコースを選択	専門性を身につけ社会を見る目をじっくり鍛える	進路を見据えた学び、活動、そして4年間の総括
	基礎演習の授業では学生同士の討論会を行い、伝える力やグループワークでの身の処し方などが身につきました。本学独自の取り組みであるRyu-SEIGAPやイベントスタッフにも積極的に参加し、学びの濃い1年間を過ごしたと感じています。今後さまざまなチャレンジを通じて成長し、知見を広げていきたいです。	講義がより専門的になり、多様な視点が身につきました。なかでも「コミュニケーション・ワークショップ演習」では、全員が納得する結論が出るまで議論する困難さ・楽しさを知り、人前で意見を述べる力や忍耐力も培われました。この学びは、周囲の人々と協働するうえで大いに役立つと確信しています。	ゼミ活動では、就労継続支援B型事業所の抱える課題・その解決法を研究し、学外の発表大会で優秀賞を受賞する成果を残せました。実践的な学びをとおして、身の回りの常識を問い直す思考力や課題発見力が大きく向上しました。自分の能力にさらに磨きをかけ人々がしあわせに暮らせるまちを創造していきたいです。	授業内でのグループワークや討論、フィールドワークなど、多くの人と関わるなかで対人能力や課題の本質を見抜く力が養われました。学生生活を通じて人とのつながりの大切さを実感し、地域や大切な人の幸福をつなげたい気持ちが強くなりました。大学の学びに誇りをもち、人の心に寄り添い続けていきたいです。
4年間の流れ				
	太田 迅優さん 1年生 (大阪府 箕面自由学園高等学校 出身)	西村 奏葉さん 2年生 (大阪府 立花園高等学校 出身)	栢村 翔太さん 3年生 (京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)	中村 まどかさん 4年生 (京都府 立山城高等学校 出身)
専攻科目	専攻導入科目 専攻基本科目 (政策学入門シリーズ) 専攻基本科目		政策構想コース [地域・都市政策プログラム/国際・比較政策プログラム] 日本、そして世界の地域政策を学ぶ	
			環境創造コース 環境にやさしい社会を実現する政策主体の役割を創造する	
			地域公共人材コース 地域社会および地域政策の担い手としての職業人をめざす	
			学部共通コース	
	グローバル・シチズンシップ・エデュケーション科目			
演習科目	基礎演習 I 基礎演習 II	コミュニケーション・ワークショップ演習	演習 I 政策学研究発展演習 I ~ V	演習 II (卒業研究含む)
	地域課題発見演習		キャリア・コミュニケーション演習	企業CSR実践演習
	伏見CBL演習		グローバル戦略実践演習	
		政策実践・探究演習 (国内)・(海外)		

### [取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状 (社会)
- 高等学校教諭一種免許状 (公民)
- 本願寺派教師資格 (受験資格)
- 「地域公共政策士」資格制度「初級地域公共政策士」

### [めざす職業・進路]

- 自治体職員
- 国家公務員
- NPO/NGO団体
- シンクタンク
- 民間企業の企画部門
- 政治家
- 環境問題に取り組む企業
- メディア系企業 (放送・新聞)
- 地方議会議員
- ジャーナリスト
- 金融機関 など

# Seminars

## ゼミ紹介

教員・  
スタッフ紹介



### 奥野 恒久ゼミ

## 憲法の知識を一から積み上げ、自分なりの意見を確立する



団結力が高まるグループワークで  
憲法や法律への理解を深めていく

畠村 桃花さん

3年生（尼崎市立尼崎高等学校 出身）

奥野ゼミでは「憲法」を主題とし、グループワークを通じて、自分の意見を確立していきます。知識がまったくない私でも関心が高まるほど、授業の内容は興味深く、堅苦しいと思われがちな憲法も楽しく学べます。特に印象深いのはゼミ討論会です。最初は気持ちがバラバラで足並みが揃わなかった私たちのグループも、準備の過程で少しずつ足並みが揃い、団結力が高まっていくのを実感しました。研究テーマへの理解も進み、卒業論文では基本的人権の一つである環境権について掘り下げたいと考えています。



### 金 紅実ゼミ

## 環境問題が深刻化している現状を理解し、グループで解決策を探る



人間が自然に及ぼす影響を  
多角的な視点から考察

永井 悠斗さん

3年生（奈良県 奈良育英高等学校 出身）

環境問題の深刻化にともなって環境への関心生まれ、環境経済学を専攻しました。ゼミ活動はグループワークが中心で、各グループで定めた環境問題のテーマについて情報を収集し、そのまとめを学修成果として発表します。一つの目標に向け仲間と協力するなかで協働力が養われ、ゼミ長を任ざれて視野も大きく広がりました。卒業論文は「人間と自然の関係」がテーマです。人はこれまでどのように自然と付き合ってきたのか、それを現代の環境問題の解決にどうつなげていくのか。ゼミでの学びと経験を糧として、多角的な視点から考察したいと思います。

### [ 政策学部のゼミテーマ ]

- 持続可能な〇〇の検討によって、地域社会の課題解決に貢献する
- 食と農に関わる課題解決を通じた地域再生、ソーシャル・イノベーション
- 住みたいと思えるまちのメディアをつくる
- 経営・心理・統計を融合させて、おもしろい研究を大真面目に行う
- 教育や福祉さらには平和といった政治・社会問題を憲法の視点から考える
- 地域経済や地域社会、地域環境を持続的に維持・保全するための制度・政策について考える
- 地域における公害・環境問題の歴史を学び、地域づくりに活かす方法を学び、実践する
- コミュニケーションやことば（言語）を切り口に社会的課題をどう解決策を考える

# Life after Graduation



## Graduate's Interview

### 京都府庁 勤務

#### Koki Shimono

下野 弘貴さん

2019年卒業  
(京都府立西舞鶴高等学校 出身)

#### Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

政策実践・探究演習では「市民参加と協働のまちづくりを仕掛けるプロジェクト」に携わり、ゼミ活動でもシェアオフィスの現状や今後について考察しました。行政の方に交じって調査や会議の運営に参画するなかで、政策立案とそのすすめ方への理解を深めていきました。実際の事例や地域の課題に基づき人と協働するこれらの取り組みは、今の仕事に興味を抱くきっかけにもなったと感じます。

#### Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

現在は、職員が利用する福利厚生施設の管理運営を中心に、地方職員共済組合の経理・監査などにも携わっています。私が担当する仕事では、府民や他の自治体の方々、職員といった異なる立場の人と接する機会が多く、そんなときにグループワークやフィールドワークをとおして培った協働力が役立っているのを実感します。今後も大学時代に得た経験と学びを糧とし、真摯な姿勢で仕事に向き合いたいと思います。

## My Background



### 大学1・2年生

演習授業の一環で福知山次世代交流ワークショップの運営に参加させていただき、「話し合いによるまちづくり」の可能性を探りました。



### 大学3年生

政策学部合同討論会に参加。アイデアを持ち寄ったり、街頭インタビューに行ったり、実践をとおして政策立案の方法を学びました。



### 大学4年生

学園祭実行委員会の委員長として来場者を増やす術を話し合いました。毎日のように仲間と活動した経験は良き思い出となっています。



### 現在

職員の福利厚生に関する細かな業務が多いので、誰とでも協調しながら友好的に仕事に取り組めるよう努めています。



## Graduate's Interview

# 株式会社ウィザス 勤務

## Ayaka Hatanaka

畑中 彩香さん

2018年卒業

(大阪市立高等学校\* 出身)

※現・大阪府立いちっつ高等学校

### Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

ゼミ活動を通じて伏見地域のインバウンド政策に取り組み、商店街の方々と協力して英語マップを制作しました。外国人観光客への取材や、商店街の自治会への参加・意見交換をとおして、建設的な話し合いやファシリテートの重要性を実感しました。大学で積み重ねた学びを現実の課題解決に応用するなかで、実践力も身につきました。またPBLの授業では、企業のCSR活動や新規事業提案に挑戦し、協働性が培われました。

### Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

学校生活に悩む方々の相談を受けたり、地域ボランティア活動を行うプロジェクト型学習を実施したりするなど、学校内外問わず多くの人と連携しながら学校運営に努めています。知識を実践に転化させるなかで養われた協働性・人間力は、生徒や保護者、地域の方々と関係構築に活かされていると感じています。生徒たちの学びの場を広げて活躍を後押しすべく、いっそうキャンパスの運営に尽力していきたいです。

## My Background



### 大学1・2年生

ゼミの先生の紹介を受け、ベトナムでのビジネスインターンシップに参加。今も私にとって大きな糧となっている経験です。



### 大学3年生

古美術研究会に所属し京都の文化財保護の啓蒙活動を行いました。価値ある遺産を守る意義、それを発信する重要性を学びました。



### 大学4年生

塾講師のアルバイトは今の仕事を志した原点です。講師研修の実施を通じて、運営の立場で全体を考える有意義な体験ができました。



### 現在

今年度からキャンパス長に就任。「地域になくてはならない学校」をめざして、生徒たちのコミュニティの輪を広げていきたいです。

# Careers

## キャリア教育の取り組み

### 就職に強い学生を育てる政策学部独自のキャリア教育

1年次から就職を意識した目標を設定し、そのためにはどのように学んでいくかの動機づけを行う科目を用意しています。さらに2年次からは「働く」ことに対して社会・経済・雇用環境などの観点から理解を深めます。業界研究・企業の現状や展望を理解する科目もあり、就職に強い学生の育成をめざします。

#### 支援の取り組み

#### 公務員セミナー・ガイダンス開催

政策学部では公務員試験に向けた試験対策勉強会を開催し、教員による公務員試験準備指導・相談を行うなど、公務員への就職を手厚くサポートしています。また、公務員の仕事を理解し、求められる知識やスキルについて考えるために、国会議員や地方自治体首長経験者を招いての講演や本学OBによる公務員体験談を聞く機会を提供するとともに、公務員試験合格者によるセミナー、試験対策ガイダンスなどを実施しています。



#### 滋賀県庁 内定

ゼミ活動では、持続可能な地域のあり方について自治・協働の観点から研究していました。フィールドワークを通じて地域住民の声を実際に聞き、人と社会を支える公務員になりたいとの思いが強くなりました。普段の講義やゼミでのディベートをとおして発言力や自主性が身につくにつれ、面接でも自分の思いをしっかりと伝えられました。学部で培った学びを活かし、笑顔あふれる地域づくりに努めます。

#### 奥村 星南さん

4年生  
(滋賀県立大津高等学校 出身)

#### キャリアシンポジウムの開催

社会に出てから求められる人材像を明らかにし、学生時代の過ごし方を考える機会を提供するために、企業の経営者や人事担当者などによる講演や社会で活躍している政策学部卒業生によるパネルディスカッションを実施しています。政策学部の学生にとっては、早期から将来を見据え、自らのキャリア形成における気づきを得る場となっています。



#### 政策学部キャリアメンター制度について

政策学部には、さまざまな分野での経験やキャリア、多様な情報・知識をもった教員がいます。そこで、ゼミの指導教員に限らず、キャリアメンター制度として、「強みを活かして就職活動がしたい」「起業をしたい」など、さまざまな学生の相談に対応できるような制度を用意しています。

#### 1年次生キャリアセミナーの開催

政策学部1年次基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて、大学生活の有意義な過ごし方や自己実現を図るためのキャリア形成について考える「キャリアセミナー」を開催しています。セミナーでは、政策学部での学びをとおして修得した社会人としての責任・役割・生きる力などを自覚し、「自らの行動がキャリアを切り拓く」意識をもつことを目標としています。

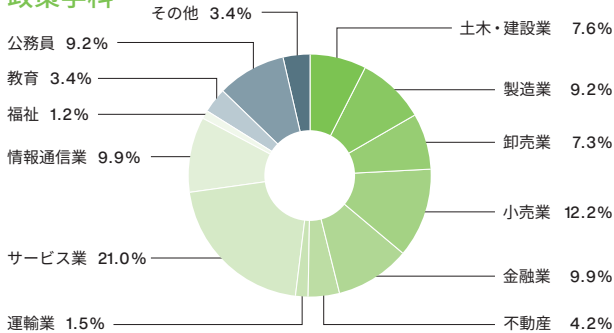
#### ニュース時事能力検定の導入

政策学部生を対象に「ニュース時事能力検定」を導入しています。政治・経済・社会といった問題について学生の客観的知力を測定することでキャリア教育としての学修到達度を測ります。また、その準備対策として日頃から新聞を読み議論することを促し、社会の動きに敏感で就職活動に強い政策学部生の育成をめざします。



## 就職状況 (2021年度卒業生)

### 政策学科



### 【主な就職先】

- 積水ハウス株式会社
- テーブルマーク株式会社
- 株式会社良品計画
- 株式会社京都銀行
- 京都信用金庫
- 京都中央信用金庫
- 明治安田生命保険相互会社
- 京都商工会議所
- 京都中小企業家同友会
- 株式会社アミューズ
- ソフトバンク株式会社
- 国土交通省
- 法務省
- 国税庁
- 長浜市役所
- 京都府庁
- 京丹後市役所
- 京都市役所
- 奈良県庁
- 高知県庁 など

※主な就職先は業種順に記載



### 財務省 近畿財務局 内定

1年次は法律・経済といった多分野を政策学に落とし込み、2年次以降は地方創生・観光政策など、座学を中心に専門性を高めました。ゼミ対抗の学部内討論会では、積み重ねてきた学修の成果を発揮すると同時に、仲間との協調を通じてコミュニケーション力や忍耐力も鍛えられました。大学で得た知見を駆使し、国有財産管理や地域経済調査のエキスパートとして地域に貢献したいと考えています。

#### 大石 将翔さん

4年生  
(静岡県 浜松学芸高等学校 出身)



### 株式会社京都銀行 内定

ゼミ活動を通じて、地域課題の解決において地域金融機関が重要な役割を果たしていること知り、関西の地方銀行や信用金庫に絞って就職活動を行いました。活動のなかで培った経験や「自分の考えを言語化する力」のおかげで、説得力のある志望動機を伝えられたと感じています。ゆくゆくは地域に基盤を置く企業同士をつなぐ架け橋的存在となり、地域の課題解決や繁栄に貢献していきたいです。

#### 木原 みなみさん

4年生  
(大阪府立吹田東高等学校 出身)

### 株式会社ミルボン 内定

持続可能な社会について学んだ経験から、ゼミ活動では持続可能な地域を研究し、仲間と協力して地域のWebサイトを制作しました。人間関係の希薄化が問題視される昨今、地域に暮らす住民の声からニーズを探り、自分たちができる行動を考えました。活動のなかで幅広い視野が培われ、自分の軸にあわせた企業選びにつながったと思います。大学で身につけた多角的な視点から社会課題の解決をめざします。

#### 島野 里佳子さん

4年生  
(大阪府立夕陽丘高等学校 出身)



### 近畿日本鉄道株式会社 内定

ゼミでの「防災」への学びが将来像を明らかにする手がかりとなり、もともと関心のあった鉄道業界に絞り込んで就職活動に臨みました。どこでどのような働き方をしたいかを常に考えながら企業研究や企業選びに注力したのが、内定につながったと感じます。ゼミで学んだ災害に関する知識と防災意識を忘れず、不測の事態にも適切に対応できる鉄道乗務員としてお客様の命と安全を守っていきます。

#### 香出 海人さん

4年生  
(広島県 崇徳高等学校 出身)





## 龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なことは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

## 龍谷大学 政策学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、  
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。  
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、  
他者を受け容れ理解する力を持つ。  
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。  
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、  
自らの可能性を広げていきます。

深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町 67  
Tel 075-645-2285  
seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫  
から好アクセス

JR大阪駅 → 約42分  
京阪京橋駅 → 約41分  
近鉄奈良駅 → 約43分  
JR三ノ宮駅 → 約63分



<https://www.policy.ryukoku.ac.jp>